

## はじめに

著者	坂田 祐介
雑誌名	鹿児島大学農学部農場年報
巻	4
ページ	2-2
発行年	2008
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/21078">http://hdl.handle.net/10232/21078</a>

# はじめに

農学部附属農場長 坂田 祐介

本学農場は、南九州という温和な気候と鹿児島県内各地に分散するという地理的な特徴を活かしながら、地域に密着した作物や家畜に関する生産活動を通じて、学生の教育を行うことを旨としています。このような立地環境にあることから、農場は講義で学ぶ理論や知識、あるいは技術を農業生産の現場で実践するための場を提供し、農場実習内容も質・量ともに多岐にわたり充実したものであることを目指しています。

本年度の附属農場のとるべき姿勢は、平成19年度から施行した「附属農場規則」にのっとり、衣替えした「農場会議」、新たに発足した「実習教育委員会」と「農場運営委員会」、ならびに附属農場の用地、建物、機材、動植物等の実習への利用を円滑に行なうための「農場施設等利用委員会」のそれぞれが、農場の組織運営と実習教育に関してどのように連携し機能しあうのかを凝視していくことであろうかと思えます。とくに、従来の生産重視に基づく組織運営を改め、上述した実習教育を重視する組織運営へと方針をシフトしたことの意図する処を、如何にして具現化していくのかを模索していく立場に立たされているといえます。

昨年度に露呈した家畜飼養技術の脆弱さゆえに生じた幾多の問題につきましては、関係者各位のお力添えを頂きながら解決へ向けた対策を検討しました。そこでは、家畜飼養管理と牧場運営に係わる従来路線の大幅な変更を決断し、実習と管理運営に関する今後の戦略を提案しました。この改革案は、実行に移すことまさに緒に就いたばかりですので、今後のどのように進展していくのか、また、はたして実効が得られるのかどうかは見当が付きませんが、まずは改善に向かって階段を昇り始めたことは評価できるのではないかと考えています。一歩だけでも、一段だけでも改善の兆しが見える春を迎えたいものです。

ここに、農場年報平成20年度版として附属農場における教育・研究ならびに農場運営の結果を取り纏めてお届けします。附属農場がその存在意義を学内外から評価されるよう学内外の関係者各位には、今後も一層のご支援とご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。